

発行代表者：鎌田 龍児

編集代表者：深田 稔

印刷：奥野印刷

2018.12

関西岩手県人会

〒530-0001 大阪市北区梅田1-3-1-900 大阪駅前第1ビル9F 岩手県大阪事務所内

[TEL&amp;FAX]

06-6344-5969

[ホームページ]

<http://www.iwate-kansai.com/>三陸沿岸  
視察記東日本大震災から七年目  
～三陸被災地の今～

和賀亮太郎



2018年6月20、21日、気心の知れた友達8人と共に陸前高田、釜石、大槌、遠野などを巡り、三陸被災地の今を見てきた。

＜陸前高田と大槌：この違い？＞  
陸前高田は今なお土地のかさ上げ

工事用車両がひっきりなしに走り回り、旧市街地は積み上げられた台地のままで、人々が集い町の賑わいを取り戻すにはまだだと感じた。

一方大槌は町が丸ごと流されたが、7年後の今街並みが戻り、港には漁船が係留され、生活を取り戻している感があった。ドキュメンタリー映画『赤浜ロックンロール』（小西晴子監督）の舞台は大槌湾のあの浜かと、感慨深く眺めた。

この違いは何から来たのだろうか、為政者の施策？住民の意思？住む町の規模？



造成地のままの旧市街地(陸前高田市)

＜宝来館：女将の熱い思いが実現に＞

自らも津波を受けながら近隣の住民を受け入れ、救援が来るまでの数日間を耐え抜いた宝来館（2015年リニューアル）の岩崎昭子女将の話を聞くことができた。「近年千葉・茨城や群馬・長野などで地震が相次ぎ、直近では大阪北部地震もあり、首都圏直下型地震や南海トラフ地震が予見されているが、人々の備えは入任せのように感じる。東京・大阪が東日本大震災のような災害に巻き込まれると国が揺らぐ。今回の被災は三陸の私達で良かった、と思うようにしている」当時のビデオで津波の恐ろしさを解説しながら被災状況を語ってくださいました。そして今釜石にラグビーワールドカップ会場を誘致し、参加者に地元のワインをふるまうべ

く「ワインで乾杯プロジェクト」を立ち上げ、この意気を感じた竹内重徳元岩手県副知事が病中にも拘らず初代会長を引き受け、多くの人達が女将の熱い思いを受けて参加している。

女将は名古屋日帰り講演の多忙な中多くの時間を使って頂き、愚問への回答も核心を突いたものだった。感謝)

＜遠野市の後方支援センター：歴史に学び備え＞

遠野市総合防災センターを訪問し、消防団司令長から「3.11遠野市の沿岸被災地後方支援」活動の説明を受けた。遠野市は岩手県央に位置し、過去の三陸津波の経験から、大震災の4年前の2008年から三陸沿岸部の後方支援基地構想を作り毎年防災訓練を行ってきた。市民も炊き出しを通じて訓練に参加してきた。2011年3月災害が発生するとすぐに被災地へ炊き出し、支援物資の受け入れ・送り出し、ボランティアの派遣など全国から寄せられる支援の手をスムーズに被災地に届け、貢献絶大。

車で移動中喧々諤々議論を重ね、今私達に必要なことは、生活環境に対する関心、災害への備え、被災に際しては変革も受け入れるビジョン、特に為政者の大災害に対するグランドビジョンではなかろうか、との結論を得た。

ツアーフラントは宮沢賢治記念館、盛岡市内観光とシャンソン歌手一條莊子・金子史央・ジャズピアニスト鈴木牧子さんのライブに心が癒され、盛岡在住の旧友たちとの再会を楽しんだ。



今回のツアーフラントにあたり、水沢タクシーの高橋十一社長には大変お世話になり、ありがとうございました。

ビデオで解説する宝来館の岩崎昭子女将

## 京都岩手県人会 創立35周年

### 記念式典および祝賀会を盛大に挙行

～101名が参加～

2018年5月20日(日) 12時～ 京都プライトンホテル

東日本大震災(2011)の復興支援に注力するため、創立30周年(2013)の行事を見送り、本年(2018)に創立35周年を祝うこととした、と以前より聞いていた。

記念式典・祝賀会はホテル1階の「英(はなぶさ)の間」で正午より開催、第1部の式典は及川光夫京都岩手県人会々長の挨拶に続き、達増拓也岩手県知事および地元の京都府知事、京都新聞社々長の来賓祝辞があつた。

式典で注目したのは岩手県への記念品贈呈で、及川会長より達増知事へ目録が手渡された。「六曲一双西陣織貼交ぜ屏風(製作:紋意匠・美光苑)」は、会場後方に披露されていたが実に豪華絢爛というふくわしい見事なものであった。

第2部の祝賀会でも京都市長、東根千万億岩手日報社々長の祝辞があり、岩手県から戸館弘幸岩手県商工労働観光部長、上田東一花巻市長、高橋由一金ヶ崎町長、似内利正岩手県陸上競技協会副会長、斎藤真弘女子駅伝元監督、また森清範清水寺貫主代理の坂井輝久学芸員など、京都岩手県人会とつながりの深い方々の顔が見られた。

関西岩手県人会からは鎌田龍児会長、柏山喬関西奥州会々長、堯律子どもぐりコールミュージカルスクール代表、和賀亮太郎関西アテルイ・モレの会々長、深



見事な西陣織屏風を背に記念撮影

田稔関西宮沢賢治の会々長が出席した。

アトラクションとして、式典では

「嵯峨大

念佛狂言(国指定重要無形民俗文化財)」の演目「土蜘蛛」が、祝賀会では「郷土民謡・だるま会」により岩手民謡他が披露され、最後は「故郷(ふるさと)」を全員で合唱して閉会となつた。

なお、記念事業の一環として、150ページもの創立35周年記念誌「やまびこ」の刊行、また、「ふるさと三陸地方に記念樹植栽を」のスローガンの下に寄付金を募り、三陸地方の市町村数ヶ所に「京都の桜」を植栽する計画とのことである。及川会長の挨拶の中で、創立25周年の時には、盛岡市、花巻市、北上市、奥州市、金ヶ崎町に植栽しており、ゆくゆくは岩手県の全市町村に「京都の桜」を植栽したいと抱負を述べられた。

(事務局F記)

## 広島岩手県人会 創立20周年

### 達増拓也知事を迎え記念祝賀会

～80余名の参加で～

2018年5月20日(日) 17時～ ホテルグランヴィア広島

達増知事の挨拶では、東日本大震災津波から7年を経過し、復旧・復興に全力で取り組んでいる状況報告、宮古港と北海道室蘭港を結ぶフェリー航路の開設、ILC国際リニアコライダーの誘致、ラグビーワールドカップの釜石開催など非常に重要な取り組みの紹介がありました。



広島岩手県人会創立20周年記念祝賀会

佐々木良二広島岩手県人会々長(盛岡市出身)から、昨年12月に満20年を迎えた広島岩手県人会の活動経緯の紹介があり、新春風物詩として定着した「天皇杯全国男子駅伝」が23回目を迎えたこと、平成9年12月に広島岩手県人会を発足させたことの紹介がありました。

平成23年3月11日三陸沖マグニチュード9.0という大地震、またそれに伴う巨大津波の発生により、岩手県だけで死者・行方不明者6254人、家屋の倒壊26079棟と未曾有の甚大被害をもたらしたこと、これに対して街頭募金をされて、「いわての学び希望基金」に寄付をされたことも報告されました。

広島岩手県人会は、陸上競技協会、岩手県産業、および東北6県の県人会とも連絡を取り合い、活発に活動されていることに感動させられました。

創立20周年記念誌は、大船渡市の碁石海岸の写真を表紙に、20年間の歩みをきちんと纏められ、見事な出来栄えでした。

(金野 衛記)

## 北東北三県合同 納涼祭

## 締めは恒例のドンパン節総踊り

スーパードライ梅田

2018年7月22日(日)  
幹事県：近畿秋田県人会

例年ない猛暑の続く今年の夏も、北東北三県合同納涼ビアパーティが7月22日(日)に梅田で開催されました。本年度の幹事県は秋田県人会で、司会進行は秋田県人会の佐藤さんでした。岩手県人会の参加者は35名で、青森、秋田両県人会の参加者を合わせると総勢119名となる暖やかなビアパーティが、各県人会々長の挨拶と、北東北三県大阪合同事務所の菅所長による乾杯の音頭で始まりました。

歓談しながらの会食をしばらく楽しんだ後、各県人会の会員による余興が始まりました。最初は、秋田県人会の梅若晶子さんが三味線を演奏しながらの民謡



楽しく談笑する岩手県人会席

## 平成30年度・やもめの会 (三県人会・横断組織)

## やもめの会でもビアパーティ

～黄昏の阪急デパート屋上13階で～

2018年8月4日(土)

昨年結成された「やもめの会」のビアパーティが、8月4日阪急デパート屋上で開催され、三県人会より24名（岩手6、青森8、秋田10）の参加があった。会場選定コンセプトが“屋根のない所”だったが、周囲の高層ビルの陰とキンキンに冷えたビールで、連日の猛暑を吹き飛ばすことができた。会の名称とは裏腹で、伴侶健在の会員が大勢居り、ボーリング（昨年8月）や温泉・カラオケ（今年3月・神戸）等、参加し易い行事を今後とも考えて参りますので、入会ご希望の方は事務局までご一報ください。（事務局H記）

## 南部風鈴を 愛でる会

## 京都清水寺にて東日本大震災復興を願う

～境内に涼やかな音色が響く～

2018年8月1日～31日

2010年（県人会の参加は昨年より）から毎夏催している「清水寺で南部風鈴を愛でる会」の法要並びに風鈴掛け初め式が8月1日行われ、本堂入口の風鈴の飾付け（約400個）は8月31日まで行われた。

尚、法要の様子を岩手日報の記事から抜粋すると…本堂で法要を営み、森清範貫主が約30人の出席者と共に東日本大震災の犠牲者の冥福と被災地の復興を祈念。

森貫主は「南部風鈴の爽やかな音色に、坂上田村麻呂とアテルイ・モレを思う。1200年の時空を超えて、手を合せられる京都と岩手の縁に感謝している」と述べた。

風鈴の短冊には釜石の唐丹（とうに）小、白山小と京都市の開晴（かいせい）小中学校の児童計200人や関係者が夢をつづった。

風鈴の飾付けや後片付け、期間中の観光パンフレッ

トの配布等にご協力いただいた会員の皆様に改めて



清水寺風鈴法要に参列の方々（8月1日）

御礼申し上げます。（事務局H記）



風鈴飾りつけ通路を行く観光客

## 第100回全国高校野球 選手権記念大会

## 花巻東高校（夏の甲子園 3年振り9度目）出場も ～惜しきも初戦で敗る～

2018年8月9日(木) 第2試合



神戸チサンホテル 激励会

組合せ抽選の前日（8月1日）に宿舎である神戸チサンホテルの激励会で、4月に赴任したばかりの岩手県大阪事務所主査・豊岡広伸氏より力強いエールを送られ、返礼として勝利の予行演習とばかりに校歌を齊唱、100回の記念すべき大会を前に選手たちは意気軒昂であった。

決まった相手は下関国際（山口2年連続2度目）で大会5日の対戦となった。試合は投手戦の続く中、5回の裏に花巻東が敵失で待望の先取点をあげた。しかし、8回に同点とされ、その裏すぐ勝ち越したもの9回表にまたも追いつかれ延長戦に突入した。

10回表、疲れた花巻東の伊藤投手が打ち込まれ、2塁

手がアウトカウントを勘違いし、花巻東らしくないプレーでダブルプレーを逃し2点を献上、その裏必至の頑張りも叶わず、2対4で敗れ去った。

春の甲子園では8強に残り期待が大きかっただけに残念であった。

炎天下、応援くださった県人会の



関西岩手県人会応援団

皆さんにお礼申し上げます。（事務局F記）

## 宮沢賢治 86回忌法要

## 霧にけむる比叡山延暦寺 ～2年連続で由緒ある大講堂にて～

宮沢賢治の命日 9月21日(金)  
関西宮沢賢治の会会長 深田 稔

賢治忌の9月21日はいつも台風に怯え、9月に入つてから天候に気を揉む毎日を過ごします。2018年は台風多発の年で、9月初旬には強い台風21号が西日本を縦断し大きな被害がありました。賢治忌当日は台風に遭わなかつたものの雨天となり、比叡山は霧にけむりながら朦朧と霞む絵画を見るようでした。

国宝・根本中堂は大屋根改修中のため軒先での法要ができず、2年連続で「法華十講」が行われる由緒ある大講堂（僧侶の学問研鑽の場）での厳かな法要となりました。参列者は53名で、そのうち会員は39名、特別参加者は14名でした。

法要は昨年と同様に大講堂内陣の仏様の前に賢治さんの写真を飾り、導師の横山照泰師、出仕4名および世話役の2名と7名の高僧が読経を続ける中、西和賀郡沢内より取り寄せた濃青色の「りんどう」を参列者全員

で献花し焼香いたしました。

今年は賢治さんと清六様の宮沢ご兄弟の他、賢治童話の挿絵画家で詩人でもありました佐伯義朗氏の奥様で、昨年他界された佐伯靖子様、さらに8回忌となる東日本大震災犠牲者の供養をしていただきました。

幹事熊谷俊夫氏の司会の下、いつものように近畿支部会員の自啓寮寮歌、「雨ニモ負ケズ」の詩の朗読、「精神歌」の全員合唱で賢治さんを偲びました。詩の朗読は昨年まで過去10年にわたる朗読コンビ、星野祐美子さんとチェロの三宅香織さんから比叡山高校放送部に移管することになり、今回は国語科の乾敏子先生が情感豊かにを朗読されました。また全員合唱では、特別に星野祐美子さんの歌と三宅香織さんのチェロ伴奏で作製いただいたCDの先導で行いました。

最後に導師の講話があり、「雨ニモ負ケズ」の詩は

「まさに法華経の教え」であると述べられました。午後からの記念講演会は、幹事の及川静衛氏の司会で、大阪国際大学名誉教授の藤本雅彦先生が「宮沢賢



延暦寺大講堂

治の信仰した「法華経」のタイトルで法華経の成り立ちと内容を解説されました。



賢治忌法要風景

## 第32回北京会リポート

2018年10月11日（木）有馬カンツリー倶楽部

北海道と東北5県（青森欠席）による第32回北東会ゴルフコンペが、前半雨模様・後半曇り時々小雨という空模様の中、有馬カンツリー倶楽部にて開催されました。今年の幹事は山形県

総勢54名、わが岩手は10名の参加（北海道10、秋田8、宮城6、福島5、山形15）。

**成績：**団体戦は例年通りチームの上位5名のネットスコア（ダブルベリア方式）の合計で競われた。順位は優勝秋田（上位5名の合計—以下同）ネット363.2（グロス464）、準優勝山形ネット373.0（グロス469）、同じく準優勝宮城ネット373.0（グロス475）、4位北海道ネット374.6（グロス449）、5位岩手ネット379.2（グロス486）6位福島ネット419.6（グロス548）。

優勝した秋田は、グロスでは4位北海道に及ばなかつ

たが、隠しホールの運に恵まれた。わが県はグロス・ネット共に5位と、振るわなかった。次回の健闘を期す。

個人戦ではネットスコア上位30位以内では10位松本（以下敬称略）、13位藤井、17位刀根、30位菊地と、4名が入っている。

10名の参加者各位のご健闘に感謝申し上げますと共に来年も多数のご参加を期待しております。尚、来年は幹事を担当する北海道から、10月9日（水）、瀬田ゴルフコース・北コースで開催すると発表がありました。

岩手チームのメンバー（あいうえお順・敬称略）：伊藤太元、伊藤泰子、柏山喬、菊地巧、熊谷克己、境谷智明、高木浩、刀根誠、藤井勝、松本泰州

（幹事 藤井 勝記）

## 人形淨瑠璃 文楽の成立

## 人形遣いを志して四十数年 芸名・吉田玉輝こと佐々木幸男（盛岡市出身）



私は昭和22年盛岡で生まれました。高校を卒業後東京の大学へ進み、その生活の中で演劇、映画などに興味を持ち劇団に入りました。その活動において日本の古典への関心が強くなっていたところ、国立劇場で文楽研修生一期生を募集しており、2年の研修を終え、昭和49年4月に人形遣いとして、初代吉田玉輝師匠（人間国宝、2006年9月没）に入門し、吉田玉輝を名乗り現在に至っています。

文楽は淨瑠璃（語り）、三味線（弾き）、人形（遣い）が一体となった舞台芸術です。この淨瑠璃を義太夫節と言います。

約330年前、竹本義太夫が竹本座を創設し、新しい語りで脚光を浴び大評判となりました。この時、淨瑠璃を書いたのが近松門左衛門でした。曾根崎心中など、市井の人々の生活と恋愛模様を書き、辰松八郎兵衛が人形を遣うことで人気を得ました。

三味線は義太夫節の伴奏ばかりでなく、太夫の語りに合った人物・情景を表現します。人形は、辰松八郎兵衛の時代は一人遣いでいたが、その後、「からくり」の伝統技芸を持つ竹田家が経営と作者として加わり、人形と舞台が大きく変革しました。

人形は、人形を遣う「主遣い（おもつかい）」、左手を遣う「左遣い」、足を遣う「足遣い」の3人で遣うという、世界に類のない様式になり、動きと演出は格段に進歩しました。

約280年前、菅原伝授手習鑑、義経千本桜、仮名手本忠臣藏等が初演され、「操り段々に流行して、歌舞伎は無きがごとし」とまで言われました。

その後は衰退期に入り、明治時代には「植村文楽軒」



国立文楽劇場（大阪市中央区）

が引き継いでいた「文楽座」だけになり、「文楽」が人形浄瑠璃の代名詞になっていきました。

昭和38年、文楽協会が設立されました。現在、大阪は国立文楽劇場、東京は国立劇場で本公演、地方その他の公演は文楽協会で行われています。

平成15年にはユネスコの「無形文化遺産」の宣言を受けました（人類の口承及び無形遺産に関する傑作宣言）。文楽をよろしくお願ひ致します。なお、文楽盛岡公演の時、岩手日報に二度紹介されました。

## 会員近況

納涼祭返信ハガキ抜粋(挨拶文省略)

浅沼正子：用事があり欠席します。釜石で初めて開催される「ラグビーワールドカップ2019」のチケット購入方法を知りたいのですが…。

阿部邦彦：他用と重なったため欠席します。

緒方千穂子：津軽恋歌を歌えたら（下手です）。ゆっくり地歩を固めていきたいです。

小田島晴夫：今回は用事があり参加できません、次回を楽しみにしています。

小原 重：腰痛のため残念ながら欠席です。

菊池昌平：別の用件があり欠席させていただきます。今後ともよろしくお願ひします。

菊池将人：大学学務事務繁忙につき欠席させていただきます。全国唯一異業種インターンシップの業務は冊

## 事務局掲示板

### \*年末・年始のスポーツご案内

- ・第98回全国高校ラグビー大会  
(黒沢尻工業、4年連続30回目、激励会：12月24日前後、  
ホテルフクラシア大阪ベイ：旧HOTEL XIA国際交流C)
- ・第27回全日本高等学校女子サッカー選手権大会  
(専修大北上高校、3年連続3回目、試合開始：2019年  
1月3日(木)、兵庫県三木市防災公園内)

### \*名刺広告&氏名広告募集(県人会活動資金)

掲載：イーハトーブ39号(2019年2月下旬発行予定)  
名刺タイプ:¥5000、氏名タイプ:¥2000  
(イーハトーブ36号をご参照ください)

子にもなりました。

小林潤子：この度は残念ながら欠席とさせていただきます。甲子園の岩手県代表の激励会にはお伺いさせていただくなつもりです。

後藤善郎：現在体調不良につき静養中ですが、元気にしております。

佐々木哲夫：病気のため欠席します。

佐々木幸男：文楽公演中ですので出席できません。

酒井清心：仕事のため出席できません。

佐藤秀藏：自治会、老人会など行事の多い時期ですね。  
残念ながら欠席します。

島 信子：元気にしております。先日、久しぶりに上京、同級生、同窓生に会うことができました。この年になると、皆、日々に歩けるうち、元気なうちに行動しようと頑張っておりました。また、仕事をしている人もいて元気をもらって帰りました。

菅原文雄：高齢につき体調不良、欠席致します。

立花正一・則子：今回ちょうど岩手の実家に帰省する時期と重なりましたので参加できません。次回を楽しみにいたします。

畠山安信：淀川花火大会の準備で忙しくしています。

林 信幸：岩手の空き家に手入れと避暑を兼ねて帰省しています。

馬場慶次郎：吹田市議会議員としての任期も残り1年を切りました。震災対応など課題山積、しっかりやります。

藤原照雄：いつもお世話になりありがとうございます。  
元気にしております。

松原志朗：大地震で肝をつぶしましたがお陰様で無事でした。初めて参加します。

森口隆次：有料老人ホームで快適に暮らしています。  
夜はOKですが日中の酒は控えるように、ということで残念ですが…。

山田英子：体調が悪く欠席させていただきます。楽しいパーティになりますように。（小原 重様、後藤善郎様、菅原文雄様、佐々木哲夫様、山田英子様、の一日も早いご快復をお祈りします。事務局）

## 編集後記

### \*平成30年、近畿の災害多発

2018年は大阪北部地震(6月18日、M6.1、震度6弱)  
および今世紀最強といわれる台風21号(9月4日上陸)  
が近畿一円に大きな被害をもたらしました。被害に遭われた方々に謹んでお見舞い申し上げます。

### \*イーハトーブ寄稿文の募集

今号は文楽の吉田玉輝氏こと佐々木幸男さんにご寄稿いただきました。文楽を志した経緯、文楽のなりたち(歴史)について、簡潔ながらも豊富な情報をお寄せ下さいました。「我も、私も・・・」と思われる方、どしどしご寄稿ください。(深田記)